学校番号	３０１３

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「最新　数学Ａ」　（数研出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・授業用のノートを用意してください。
問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，図形の基本的な性質を理解し，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，図形に対して図形の持つ性質を利用し問題解決する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。
(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	場合の数と確率,図形の性質および数学と人間の活動についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力,適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断することがきできる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　場合の数と確率	第１節 1.　樹形図，和の法則，積の法則 2.　順列 3.　円順列と重複順列 4.　組合せ	a:樹形図や和の法則，積の法則を用いることができる。また，順列や円順列，組合せの用語，記号，公式を利用できる。 b:積の法則から順列の公式を考察する。また，具体的な問題を通じて円順列，重複順列の考え方を適用できるか考察できる。 c:樹形図から和の法則，積の法則を考察しようとする。また，組合せの考え方に興味・関心を持ち活用しようとする。	定期考査 小テスト ワークシート ノート レポート	定期考査 小テスト ワークシート ノート 発表 レポート	ワークシート ノート 発表 レポート 観察 振り返りシート

		第 2 節 1.　確率の意味 2.　確率の計算 3.　和事象の確率 4.　余事象の確率 5.　独立な試行の確率 6.　条件付き確率	a:確率の意味や基本的な法則について活用できる。 b:試行の結果を事象としてとらえ，事象を既知の集合と結び付けて考察できる。不確定な事象を，同様に確からしいという概念をもとに数量的にとらえることができる。 c:身近な試行によっておこる事象と関連づけながら，実験などを通じて確率に興味・関心をもち，確率の考え方を活用しようとする。	定期考査 小テスト ワークシート ノート レポート	定期考査 小テスト ワークシート ノート 発表 レポート	 ワークシート ノート 発表 レポート 観察 振り返りシート
	第3章　数学と人間生活	1　約数と倍数 1.　約数と倍数 2.　素数と素因数分解 3.　整数の割り算	a:約数と倍数の意味を理解している。自然数の素因数分解を求めることができる。整数 a と整数 b の割り算を等式としてとらえることができる。 b:問題解決の過程を振り返り，割り算の余りの性質について考察することができる。 c:日常生活における具体的な事象の考察に，約数と倍数の考え方を活用しようとする。	定期考査 小テスト ワークシート ノート レポート	定期考査 小テスト ワークシート ノート 発表 レポート	 ワークシート ノート 発表 レポート 観察 振り返りシート
		2　1 次不定方程式 1.　最大公約数 2.　ユークリッドの互除法 3.　1 次不定方程式	a:素因数分解を理解して最大公約数を求める方法を理解するとともに，互除法を用いて 2 数の最大公約数を求めることができる。	定期考査 小テスト ワークシート		
2学期		3　記数法 1.　現代の記数法	a:10 進法，2 進法、n 進法について理解している。 b:10 進法や 2 進法を n 進法として表現する方法を考察できる。 c:コンピュータや身近なものに n 進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。	定期考査 小テスト ワークシート ノート	定期考査 小テスト ワークシート ノート 発表	 ワークシート ノート 発表 観察 振り返りシート

		4 座標の考え方 1. 平面上の点の位置 2. 空間上の点の位置	a:座標の考え方を理解し，空間の点まで拡張して考えることができる。 c:平面上の点の位置に関する問題を，座標平面状で代数的に解決しようとする。	定期考査 小テスト ワークシート ノート		ワークシート ノート 発表 観察 振り返りシート
		5 ゲーム･パズルの中の数学 1. ゲームの中の数学(1) 2. ゲームの中の数学(2)	a:ゲームの設定を多面的かつ論理的に考え，ゲームで勝つ方法を導くことができる。 b:ゲームやパズルのしくみを論理的に考察することができる。 c:ゲームの必勝法やパズルの解法に興味を持ち，解こうとする。	定期考査 ワークシート ノート	定期考査 ワークシート ノート 発表	ワークシート ノート 発表 観察 振り返りシート
	第2章 図形の性質	第1節 三角形の性質 1. 角の二等分線と比 2. 三角形の外心･内心･重心 3. チェバの定理･メネラウスの定理	a:平行線の性質や，線分の内分点･外分点，三角形の内角･外角の性質を用いて線分の長さを求めることできる。また，内心･外心･重心の性質を用いて，問題を処理することができる。 b:図形に対して目的に対して適切な補助線を引くことができる。また，チェバの定理，メネラウスの定理を用いて考察し，証明できる。	定期考査 小テスト ワークシート ノート 発表	定期考査 小テスト ノート 発表	
3学期		第2節 円の性質 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円と接線 7. 接線と弦の作る角 8. 方べきの定理 9. 2つの円	a:円周角の定理や円に内接する四角形の性質，円と接線の性質を用いて角度を求めることができる。また，方べきの定理を用いて線分の長さを求めることができる。 b:円と直線の位置関係や 2 円の位置関係を理解し，動的に観察し考察できる。 c:円に内接する図形の違いを認識し，それぞれの性質をまとめようとする。	定期考査 小テスト ノート 発表	定期考査 小テスト ノート 発表	ワークシート ノート 発表 観察 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度